



# みみだより

松江ろう学校 支援部

No. R4-5 2023/3/10

早いもので今年度も残りわずかとなりました。今号では、「中国教育オーディオロジー研究協議会 冬の研修会報告」と「ろう教育学習会、2025年 夏季デフリンピック」をお伝えします。

## 中国教育オーディオロジー研究協議会 冬の研修会報告

中国教育オーディオロジー研究協議会というのは、主に中国地区のろう学校の教員による、研修を目的とした会です。コロナ禍になり中止していましたが、昨年度から講演のみをリモートで行う方法で再開しました。この冬も、先日1月21日(土)に講演があり、本校からも20数名の教員がリモートで参加をしました。

『主体的・対話的な学びを促す支援について』という講演のテーマで、亜細亜大学の橋本一郎先生の話をお聞きしました。橋本先生は、元特別支援学校の教員でろう学校での勤務経験が長く、現在は大学の講師をされながら、聞こえない弁護士の手話通訳としても活躍をしておられ、さらに、聞こえない店長が経営するラーメン屋で週に1日アルバイトもしておられるのだそうです！すごいですよね。デフスポーツやアートにも関わっていらっしゃる、多彩(才)で笑顔も話し口調も(手話も)人柄のにじみ出る、とても素敵な方でした。Facebook や Instagram でも情報を発信され、とても楽しそうに生き生きしておられました。ぜひ探してみてください！

講演の中で、「ろう学校は聞こえない子たちにとって、普通の学校」と話されたことが印象的でした。

自立活動は ひとりひとりが聞こえない自分をしっかりうけとめ  
社会の中で堂々と自立して生きていくための  
基礎作りを目標にして計画して進めていくもの

他の人に頼らなくても自分の力で生きられることも自立、

自分ではできないときに、素直に人に助けをお願いすることができる力をもつことも自立

話を聞いて全て自分でできることが必要なのではなく、自分がどうしたら生きやすくなるのか、どうしたらできるかを考えられる人になってほしいな、と感じました。

講演の中で、聞こえない人が出演したり手話指導をしたりしている作品をたくさん教えてくださいましたので、みなさんにも情報提供したいと思います。興味のある作品があれば、ぜひ探して見て下さい！

- ☆『Coda(コーダあいのうた)』(2021 映画 米国)…聴覚障がい者の両親をもつ子供(コーダ)である10代の少女を描いた映画
- ☆『LOVE LIFE(ラブライフ)』(2022 映画 日本)…韓国のろう者を砂田アトム(日本人のろう者)が演じている「愛」と「人生」に向きあう一組の夫婦の物語
- ☆『桜色の風が吹く』(2022 映画 日本)…見えない。聞こえない。でも僕は“考える”ことができる——9歳で失明、18歳で聴力も失いながら、やがては盲ろう者として世界で初めて大学教授となった息子とその母の物語
- ☆『ケイコ 目を澄ませて』(2023 映画 日本)…聞こえない元プロボクサー・小笠原恵子さんの自伝を原案にした人間ドラマ
- ☆『星降る夜に』(2023 ドラマ 日本)…孤独な産婦人科医と、音のない世界で生きる10歳年下の遺品整理士という“命の始まり”と“終わり”をつかさどる対照的な二人の大人の恋を描く

ほかにも、立川市にある【手話が共通言語となる国内初のスターバックス サイニングストア】についても教えてくださいました。知らないことがまだまだたくさんある！と感じた講演でした。もし、私も知らなかった！と思われたら、この機会に調べたり、観たり、行ってみたりしていただきたいなと思います。

## ろう教育学習会

支援部では「聴覚障がいに関わる基本的な知識を学び合い、子どもたちへの支援にいかす」ことをねらいとして、聴力測定の方法やオーディオグラムの書き方、補聴器特性検査について等、今年度 10 回先生方を対象としたろう教育学習会を行ってきました。今回は、1 月の学習会の内容から抜粋して皆さんにお伝えします。

### 【運転免許獲得をめざす運動】

かつての道路交通法には「耳が聞こえない者には免許を与えない」という文言がありました。

1967 年 岩手県盛岡市に暮らす 樋下光夫さん(当時 25 歳)は補聴器をつければ少し聞こえる程度の聴覚障がい者でした。仕事で車かバイクが必要でしたが、何度試験を受けても適性検査で不合格になってしまいます。仕方なくバイクの無免許運転を繰り返し、ついに起訴されてしまいました。

1968 年 全日本ろうあ連盟は「樋下さん個人の問題ではなく、聴覚障がい者全体の問題」として、組織的な支援に取り組みます。松本晶行弁護士(ろう者)は公判において「めがねの矯正を認めながら、補聴器の使用を認めないのは不公平」「はっきりとした理由なく免許をもたせないのは、職業選択の自由を認めている憲法に反する」と訴えました。ろうあ連盟では科学的根拠を得るためのデータ集めをするともに、全国各地で署名運動を行いました。1973 年 警視庁は適性検査に補聴器の使用を認める通達を出し、翌年樋下さんは免許を取得できました。

これらの運動は、聴覚障がい者の生活と人権を守る上で大きな意義のある、歴史に残る権利獲得運動とされています。

## 2025年夏季デフリンピック

デフリンピックは国際的な「ろう者のためのオリンピック」で夏季大会と冬季大会がそれぞれ 4 年に



1 回開催されています。100 年近い歴史の中で日本で開かれたことはありませんでしたが、2025 年の大会は東京で開催されることが決まりました。世界 70~80 の国と地域から選手ら 5000~6000 人が参加見込みと言われています。



デフリンピックのロゴマークは「OK」「GOOD」「GREAT」を意味するサインの手の形が重ねられています。

ちなみにこの写真の真ん中に写る男性は、島根県出身のデフピアニストです。過去水泳競技で何度も金メダルを獲得しておられます。

大会に向けて、「デフスポーツでどんな工夫がされているのか」「国際手話って何だろう」等、子どもたちとともに学べるといいなと思っています。

【一般財団法人全日本ろうあ連盟 HP 参照 <https://www.jfd.or.jp/2022/09/26/pid24500>】